

2006年4月27日

どうなる どうする迷走チボリ公園

チボリへの新たな税金投入に反対する緊急集会

日本共産党県議会議員

赤坂 てる子

1. 知事提案の再建案は撤回すべき

○3月31日、知事は「倉敷チボリ公園の今後の基本方向性について」を発表
(提案内容) (資料参照)

「現在のチボリ公園の魅力や賑わい、花と緑の美しさを維持する県民・市民公園として、県と市が連携して安定的な運営を行うことを、基本方向とする」

- ・3つのパターンのうちパターン1・2の「折衷案」
- ・県民・市民公園化し、指定管理者制度の導入
指定管理者の指定期間である3年を目途に再点検
- ・入園者数見込み 90万人
- ・入場料 1000円
- ・県支出 地代(5.69億円)
管理費用(4億円) 委託イベント(1.5億円)
入園料(4.5億円)と差し引き1億円の見込み
- ・土地代の引き下げをめざす
- ・「県に対する倉敷市からの相応の協力を前提」

○「撤回」しかない知事提案 (4月4日の県議団申し入れ書参照)

① 異常な提案・議論の仕方

検討委員会のあわただしい議論 1/27 3/26 3/23 3/29
倉敷市の全会派、アンケートが恣意的と抗議(3/10)
倉敷市税投入提案 前提の倉敷市の意向を無視

② 新たな名目で税金投入への道

結果次第でさらなる税金投入に

③ 知事の議会答弁にも反する

4年前、「新たに5年間で35億円の税金投入」の提案時
知事は、「チボリは5年後(06年度)には補助金なしで単年度黒字化」を議会答弁で明言 (資料参照)

- ④「チボリが地域に役立っているか？」
「チボリが大いに役立っている」 8.3% (県民意識調査より)
- ⑤不安定要素が強い、不安定な案

2. 再建案発表後一ヶ月——さらなる迷走状態に

○入場者数91万人に激減(05年度)
150万人 それでも見直しせず

○実質「社長不在」
社長のセクハラ問題
4月25日、服部社長辞任の記者会見

○与党議員からも批判の声

○倉敷市長・議会

3. チボリ問題の解決は、 「新たな、巨額の、長期的な税金投入をしない」方向で

こうした事態の最大の要因は、公共性の乏しい第3セクターのテーマパークへ巨額な税金投入を繰り返してき歴代知事の責任は重大
県が民間の土地を借地して、第三セクターのレジャーランドの運営をしているのは、全国で例がない。

○「新たな、巨額の、長期的な税金投入をしない」方向での解決を
日本共産党県議団は、昨年9月議会、武田質問で提案し、2月議会でもこの立場で追及

○今後
6月県議会 6月12日開会
チボリジャパン社の株主総会 6月下旬?

以上